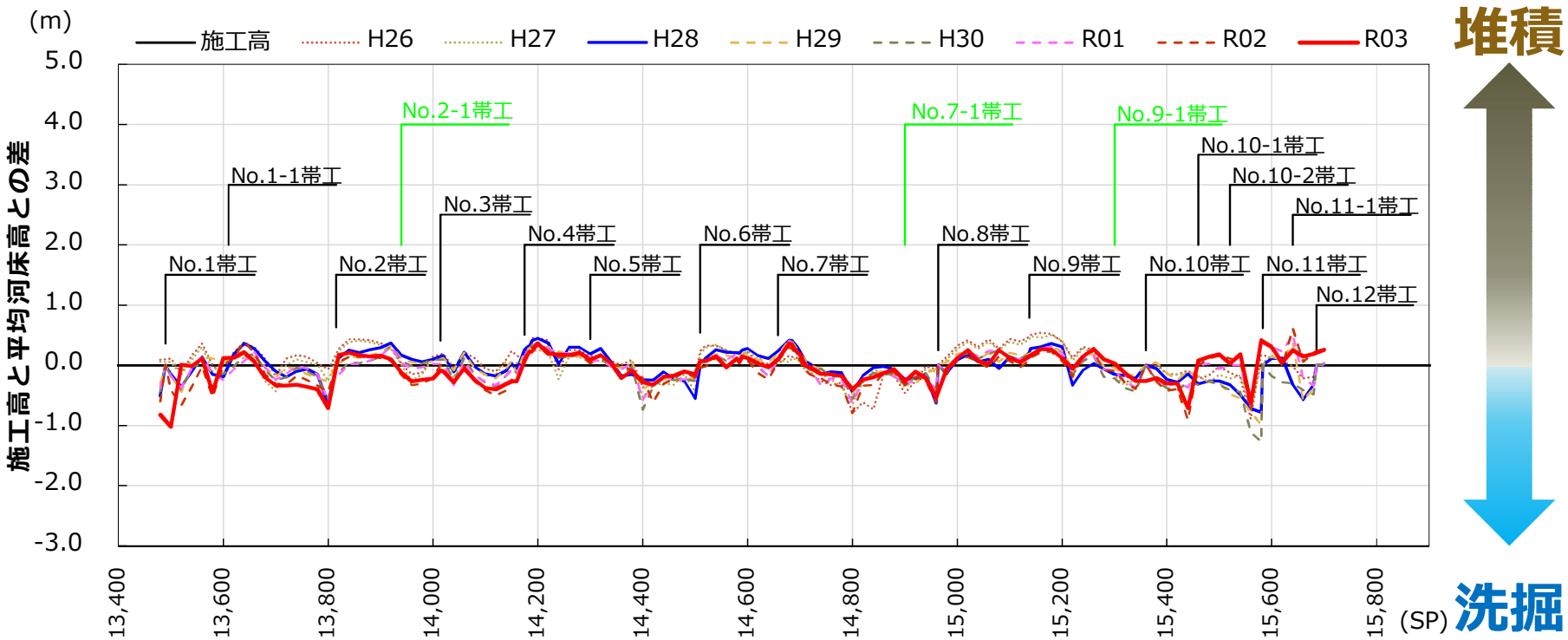
1.3　モニタリング

（3）モニタリング結果 ②河床高の把握

■平均河床高の推移



●平均河床高の変動は、概ね0.5mの範囲内となっている。

●今後も工事の進捗に合わせて河床高をモニタリングし、順応的に管理していく予定である。

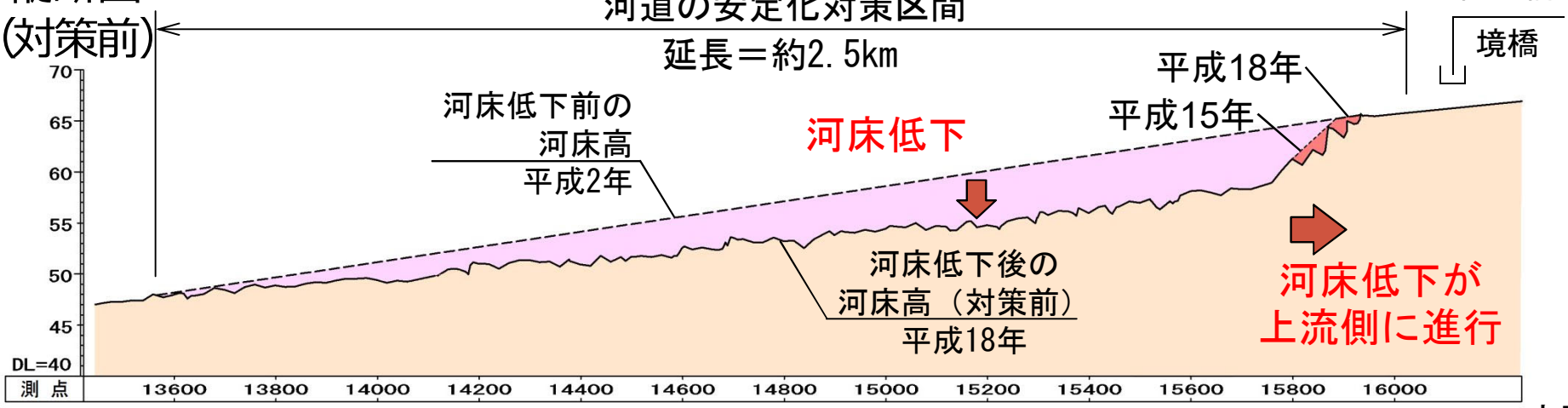
1.4　河道の安定化対策の環境面の効果

（1）対策前の状況

KP15.2河床低下区間の状況

KP15.8河床低下区間上流端の状況

縦断図
(対策前)

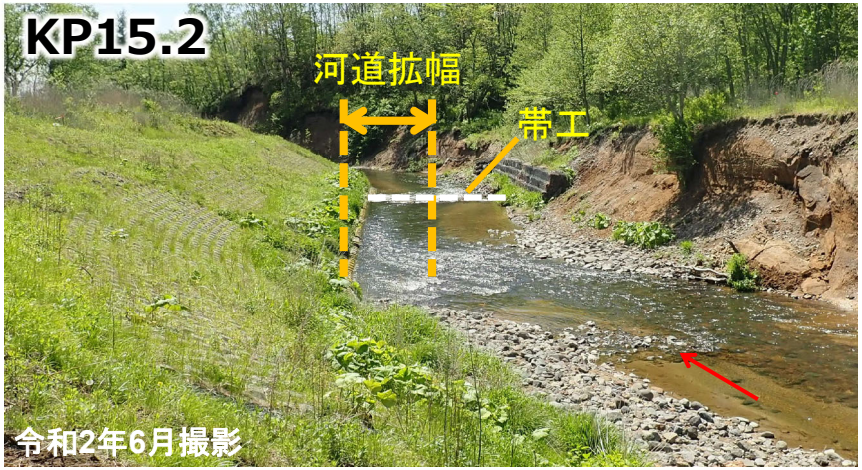


1.4　河道の安定化対策の環境面の効果

（2）対策前後の状況

対 策 前

対 策 後



河床低下区間の対策前後の状況

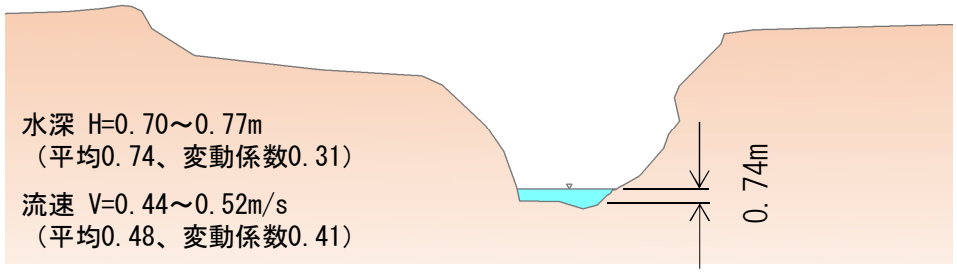
河床低下区間最上流端の対策前後の状況

1.4　河道の安定化対策の環境面の効果

（3）対策後の状況 ①物理環境（水深・流速）

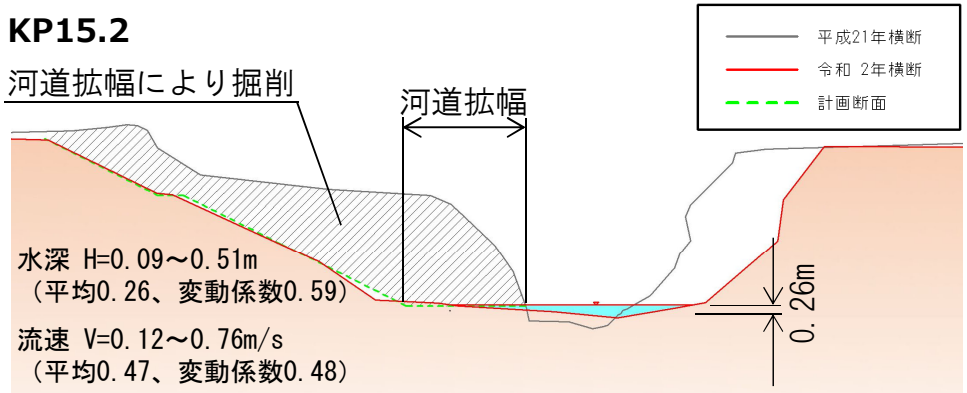
対策前の状況

KP15.2



対策後の状況

KP15.2

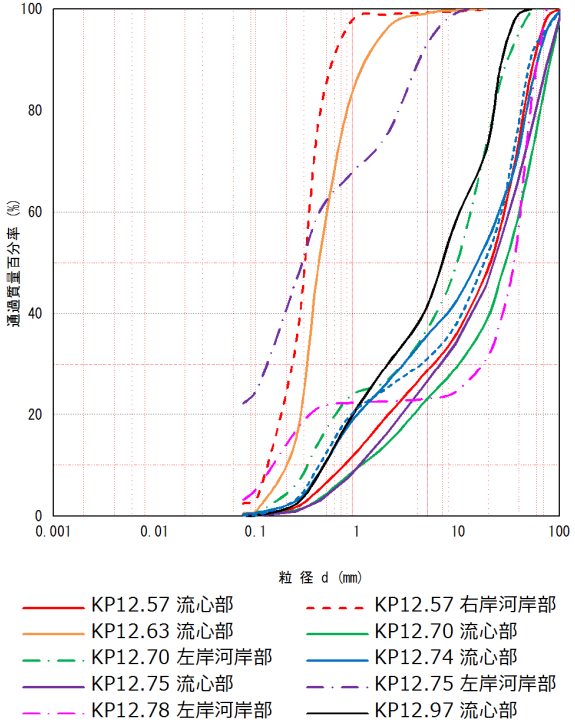


- 対策前は水深が大きく、単調な水深、流速であった。
- 対策後、ファレンスサイトのような多様な水深、流速に近づいてきている。

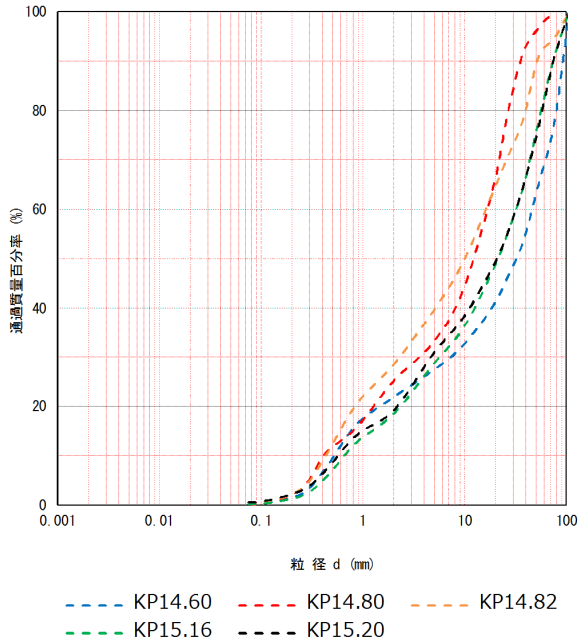
1.4　河道の安定化対策の環境面の効果

（3）対策後の状況 ②物理環境（河床材料）

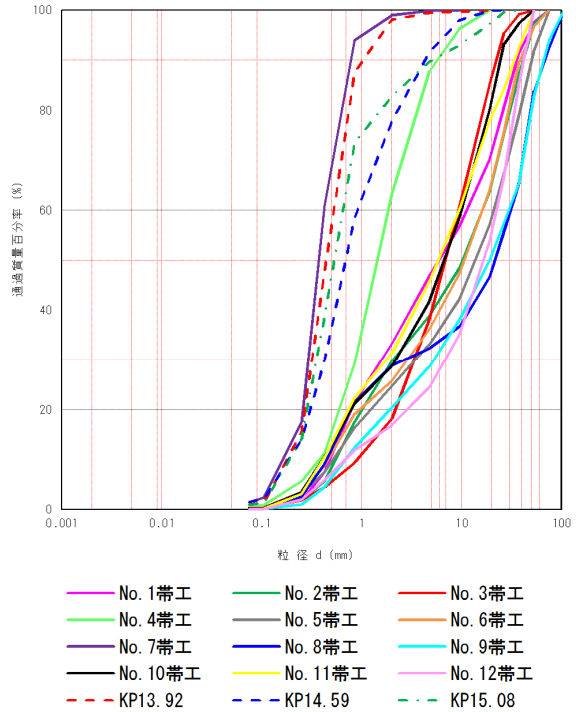
リファレンスサイト



対策前



対策後



- 対策前は、粒径が大きく、細かい粒径の河床材料が含まれておらず、単調な状況となっていた。
- 対策後は、比較的細かい粒径の河床材料が含まれており、リファレンスサイトのような多様な状況に近づいている。